

令和4年度 園評価

大垣市立綾里幼保園

	重点目標	評価項目	自己評価 ○成果 ●課題	関係者評価(評議員7名)	次年度への改善と方策
やわし子	挨拶する気持ちよさを感じ、様々な人に挨拶する。	まなざしを合わせて子ども自ら挨拶しようとした。	3.2 ○年齢や性格に応じた挨拶を受け止め、お辞儀や仕草をするなどその子なりの表現や成長が感じられた。 ○表現が難しそうときは質問形式にすることで、子どもが自ら考えて答えられるように工夫した。 ●自分の思いを伝えるときに口調がきつくなったり言葉が足りなかったりするため、子どもの思いに共感し寄り添いながら具体的に伝え方を知らせていった。	・送迎の車の中からも元気よく挨拶してくれる。	・相手からの挨拶の返しはできるようにになったが、自らできるように挨拶週間を設け、挨拶したらシールを貼るなどの視覚的効果を考える。
	様々な感情体験をし、相手の気持ちに気付く。	友達のよさや相手の思いに気付き、認めたり我慢したり譲ったりした。	3.1 ○毎月クラスだよりのほかほかコーナーで日常の子ども同士の温かい交流や思いやる行動を保護者に発信したり送迎時に伝えたりして共有することができた。 ○帰りの会等で友達の「よいところみつけ」をすることで、落とし物をすぐに拾う・トイレのスリッパをそろえるなど優しい姿が増えていった。 ●子どものやる気を先走って支援せず、余裕をもって待つ、見届ける支援をしたい。 ●些細な事として見過ごしてしまわず、素敵な姿として広め保育者や友達、保護者と喜びを積み重ねていきたい。	・年長児が泣いている小さい子に声をかける姿が見られ、先生の優しさが子ども達に伝わっていることを感じた。	・「よいところみつけ」を話すだけでなく、紙面にして残したり、保護者へ発信したりしていく。 ・異年齢交流をし、年下の子への思いやりの気持ちを育てる。
がんばる子	目的をもち、失敗を恐れずやってみる。	様々なことに興味をもち「やってみよう」と意欲をもった。	2.7 ○子ども達の活動や興味に合わせてチャレンジカードを作成し、友達の姿が互いに刺激となり意欲につながった。 ○縄跳びやこま回し等、家庭と協力し合い「おうちチャレンジ」を取り入れ、少しずつ上達する喜びを励ましたり応援し合ったり、子ども達のやってみようという意欲や自信につながった。 ○異年齢交流で散歩に出掛け、歩く力がつき距離が伸びた。年長児からは相手に合わせたりいたわる姿を引き出したりすることができた。 ●子どもの活動とチャレンジカードをうまく連動できず、ハンコを押すことがメインになってしまった。	・できるまで頑張っている姿が印象的だった。 ・友達同士が互いに刺激し合う関係は良いと思うが、差ができて、できない子が自信を無くさないように援助してほしい。	・引き続き園でのチャレンジカードを使用すると共に、生活面のチャレンジとして生活リズムカードの内容を検討し活用する。
	全身を動かして存分に遊び、心地よさを感じる。	体力がつき、自ら体を動かして遊ぶようになった。	3.6 ○天候や体調を考慮しながら、登園後すぐに遊びだせる環境を整え戸外遊びの機会を増やしていった。1日に一回、必ず体を動かす習慣が定着した。 ●室内遊び(特に遊戯室)は、活動内容が体操やリズム遊びになりがちで変化がなかった。 ●室内の体育遊具等の教材研究や活用に努めたい。	・園庭で遊んでいる姿を見ると楽しく元気にしている。	・ACPの運動あそび集を活用して室内・戸外で体を動かす遊びを行う。
考える子	自ら関心をもって環境に関わり、不思議さや面白さに気付き、試したり工夫したりしようとする。	自ら好きな遊びを見つけ、試したり工夫したりしながら遊び込んだ。	3 ○年齢や発達に応じた体操やサーキット遊びを設定した。ドングリや松ぼつりのコリント、砂場での自然物の活用など繰り返し試工夫する姿につながった。 ○運動会での5歳児のタイヤ引き(障害物競争)から、未満児へとタイヤ遊びの活動が広がり、自分から引っぱり乗せてもらったりすることを楽しんだ。 ○職員間でのびのび遊びについて話し合い、環境図や反省等を週案に記載し子どもの実態に応じて PDCA サイクルで改善を行っていった。 ●行事前になると、行事の練習などで遊びが一旦中断する。	・砂遊びでそれぞれが自分で考えて遊んでいてよかった。	・環境設定に変化をつけながら、常に挑戦する意欲を引き出す。 ・行事でのびのび遊びが中断しないように、行事にかかわる遊びを事前に組み込めるよう週案会で、環境図や反省を基に話し合う。
	人の話すことに関心をもち、よく聞いて考えたり、相手に伝えるように話したりする。	関心をもって話を聞き、考えたり、伝えたりすることができた。	3.4 ○1日一回、絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、ボードに記入し保護者にも伝えていった。 ○子どもの好きな絵本から劇遊びや制作遊びへと活動につながり、絵本の世界のイメージを広げて作ったり演じたりして楽しむことができた。 ○幼児は朝の会、帰りの会、当番活動を通して人前で話す機会を設けたことで、「前にでたい」「当番がしたい」という意欲につながった。 ●絵本貸し出しでは子ども主体で絵本を選んでいるため、季節や年齢にそぐわないものを選ぶことがあった。	・小さい頃からの本を読む習慣を大切にしてほしい。 ・絵本によって感情のイメージをもちやすくなるので、続けてほしい。	・絵本の世界のイメージを随時作品展や発表会などにつなげる。 ・子どもと共に保護者も楽しんでもらえるように保護者が読んであげたい絵本を選ぶ日を設ける。
安心・安全	子どもの命を守る高い意識をもって安全保育を行う。	園児や保護者が安心して園を利用できるように環境を整えた。家庭で役立つ情報を提供できた。	3.1 ○体調の変化を見逃さないようにし、早目の受診、休養を勧め園での感染状況を知らせ保護者との連携を密に行なった。 ○命を守る訓練や防犯訓練を毎回想定を変えて行い、事後に話し合いを行い危機管理意識を高めていった。 ●様々な状況を想定して訓練を行ったが、実際に起ったら守り切れていないのではないかと反省した。個々に分かることを見直し、次の訓練に活かせるようにした。 ●寒さや面倒さから、手洗い消毒がおろそかになる子もあり、大切さを知らせつつ見届けていった。	・幼児の安全が守られない事件が多く発生している。より危機意識をもって子どもたちに関わってほしい。 ・不審者訓練を継続してほしい。	・園で流行している病気や体調管理について情報提供していく。 ・園で行った安全教育に関するお便りを配布し、家庭でも意識してもらう。
	情報を共有し、保護者と共に子どもの育ちを支える。	職員に話しかけやすく、質問や相談がしやすい雰囲気をもてた。園の様子を分かりやすく知らせた。	2.9 ○保育者側から積極的に園での様子やエピソードを伝えていくことで、保護者からも家庭での様子や育児相談、発達の悩みについて話してもらえようになり信頼関係が築けた。 ○幼児期の終わりまでに育てたい姿をクラスだよりの週案に記載し常に心掛け保育にあたるのと同時に、保護者にもどんなことを意図して活動に取り入れて保育しているか伝えていった。 ●トラブルや怪我の状況説明が不十分だったり、伝わるのに時間が経ってしまったりして保護者が心配された。保護者の思いに寄り添った対応をより丁寧に積み重ねていきたい。	・子どもの相談をした時に園での様子や年齢に応じた話をしてもらえ安心した。	・落ち着いた話ができる場としての様子や年齢に応じた話をしてもらえ安心した。 ・園の様子や活動をおたよりやキッズビューで配信していく。